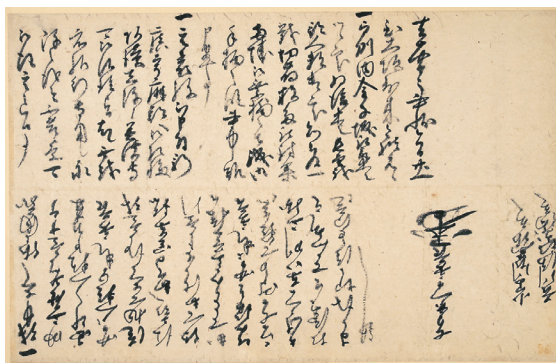
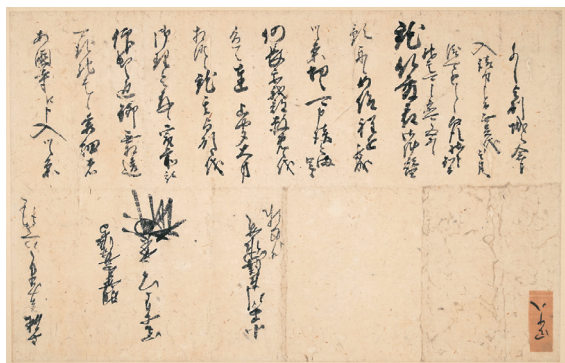




羽柴秀吉書状  
(小早川家文書) 文化庁所蔵



羽柴秀長書状  
(小早川家文書) 文化庁所蔵

天正13（1585）年7月、東予地方は、全国統一を目指す羽柴秀吉の命を受けた毛利軍の侵攻を受けました。今回紹介する史料は、この四国平定戦（天正の陣）の折に、羽柴秀吉・秀長兄弟から毛利軍指揮官の小早川隆景へ送られた書状です。

右の書状は、金子元宅らが立てこもる高尾城（西条市）への攻撃開始の報告を受けた秀吉が、隆景と吉川元長の手柄をたたえ、引き続き新居・宇摩郡へ侵攻し、阿波・讃岐方面にいる秀長と連絡を密にするよう命じたものです。

左の書状は、四国平定軍の総大将である秀長から仏殿城（四国中央市）に陣替えた隆景へ、長宗我部元親との講和の成立と元親の赦免、土佐一国安堵が決定したこと、伊予国は約束通り隆景に預けて、伊予国内の諸城を引き渡すことを伝えたものです。

この戦いによって四国の戦国時代は終わりを告げ、秀吉配下の大名による統治が始まります。

これらの書状は折紙という形式で、和紙を横半分に折って書いています。常に折目を下にして書くため、文章が長くなるときは、紙をひっくり返して続きを書きます。そのため、広げると写真のように折目を中心に文字が上下に向かい合う形になります。

8月販売予定の「新居浜市史 史料編 古代・中世」には、この書状を含む四国平定戦関連の史料約140点を載せています。ぜひご覧ください。

▼市史編さん室 ☎65・1567